## 平成 28年度 西東京市立

# 谷戸第二小学校 学校評価計画表

### 学校教育目標

○学ぶ喜び

○集う喜び

○伸びる喜び

をつかむ子

### 目指す学校像(ビジョン)

【月指す学校像】

像】 「子供一人一人が学ぶ喜び、伸びる喜び、集う喜びをつかむ学校」を、子供の学びのエンジンを動かして実現していく。

【目指す児童・生徒像】様々なことに主体的能動的にかかわって、知識・技能のみならず、体力、思考・表現力、学ぶ力を高め、これからの自分の学習や生活に生かしていこうとする児童。

【目指す教師像】 児童一人一人のよさを見付け、認め、称揚し、そのよさをさらに伸ばし広げる方策を練って、粘り強く指導・支援していく教師。

#### 前年度までの学校経営上の成果と課題

落ち着いた態度で授業を展開できている。「子供一人一人が学ぶ喜び、伸びる喜び、集う喜びをつかむ学校」を、子供の学びのエンジンを動かして実現する。そのため、問題解決的な学習を多く取り入れた楽しく充実した授業を展開していく。思考カ・判断カ・表現力の育成を重視ていくために、学習内容を見える化し、操作し、友達と協同して組み立てていけような授業の充実を目指す。平成28年度は、西東京市研究指定校として、生活科・総合的な学習の時間の研究に取り組む。保護者ボランティア活動は定着してきた。安心・安全な学校をつくるためにも、学校からの情報発信に努め、保護者・地域が学校に関わり、連携していただける機会を積極的につくる。

	目什处十年	学校自己評価		当什 <b>么</b> 即知了. 7. ****	*****	<b>学</b> 带眼皮革题压到 1 栅
	具体的方策	努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
豊かな心の育成	ア:児童のよさを見付け・認め、挑戦を励ま す言葉かけを毎時間励行する。	<b>4</b> 100%	<b>3</b> 児童 88%	常に、小さなことでも、大きなことでも、できなかったことができるようになったら、たくさん褒め、さらにもう一歩頑張れるように声かけをした。また、小テストを含め、必ず一言添えて返却するようにしている。100%の教師が児童を褒めていると認識しているのに対し、児童の12%はそう感じていない。児童の個々の状態を把握し、ビンポイントで児童に伝わるように褒めていく必要がある。	Α	我が子のノートに、よく先生からのコメントが書いてあり、子供も勉強の意欲につながっていると思う。
	イ:道徳授業は、文部科学省作成の「わた したちの道徳」等を活用し、「考える道徳」 「議論する道徳」を意識して行い、授業の充 実を進める。	<b>3</b> 94.7%	<b>3</b> 児童 84%	日常的に意識して道徳の授業を行う教員が増えている。プレゼンテーションやBGM、イラスト等を活用し、児童が集中して話に入り込めるようにした。また、大型絵本で資料提示し、児童に動作化させてから考えさせるようにした。副読本を有効活用し、学校全体の道徳授業の更なる向上を図る。来年度も、道徳教育推進教師を中心に校内研修会を開く。	Α	今後も授業展開を工夫し、「考える道徳」「議論する道徳」を意識した指導を継続的に 行ってほしい。学校公開等で、積極的に道徳の授業を公開して欲しい。
確かな学力の向上	ウ:学習の見通しや達成感をもてるように、 授業の導入部で学習の「ねらい」を共有し、 授業の終わりには学習内容・方法の「ふり かえり」のある授業を積み重ねる。	<b>3</b> 95.5%	<b>4</b> 児童 93%	児童の言葉を生かして「めあて」を立てることにより、児童が主体的にイメージをもって取り組めるようになった。 授業のはじめに「めあて」を共有し、授業の終わりには、全体で「まとめ」を行い、個人で「ふりかえり」を行うということを、教職員で共通理解を図ってきたが、行い方にクラスによって差がある。 全体での「まとめ」、個での「ふりかえり」について、教職員で更に共通認識をもって取り組んでいく。	Α	学校公開で参観したとき、どの学級も、その時間のめあてを板書していた。子供一人 一人が、何をめあてにして行うかを、しっかりつかんで学習に取り組むことが大切だと 思う。
	エ:思考・表現力を高めるため、体験活動を 基盤におき、国語科との関連的な指導と、 見える化、操作化、協同、個別の熟考表現 のある授業を全教科等で積み重ねる。	<b>4</b> 100%	<b>3</b> 児童 85%	思考ツールや板書を活用して、見える化や操作化のある授業や、グループや個での思考 表現のある学習活動を積み重ねることができた。また、校内研修で思考ツールを活用した 取組を全教員で共有したことにより、各クラスで思考ツールの活用が定着し、意欲的に自 分の考えを表現できる児童が増えた。さらに、いろいろな教科での活用方法を共有化して いく。	Α	思考ツールを使って、自分の考えを見える化することは、よい取り組みだと思う。 今後も実践を積み重ね、いろいろな教科で活用してほしい。
	オ:「見える・わかる授業」の具体化のため、思考ツール、ミニホワイトボード、ICT機器の活用のある授業を効果的に実施する。	<b>4</b> 100%	<b>3</b> 児童 89%	すぐにICT機器を使える環境作りができたため、書画カメラやプロジェクター等、どの授業でもICTを積極的に活用する教員が増えた。また、前期の他のクラスの効果のあった活用法を参考にして、自分のクラスでも実践する教員も多くいた。一方、ICT機器を活用した実感がない児童がいることから、デジカメを各クラスで活用できるよう、環境作りを進めていく。		みえる・わかる授業実現のため、ICTの活用方法を工夫していただきありがとうございます。デジカメが各クラスにあったらいいですね。活用方法が広がりそうです。
	カ:算数科の習熟度別学習と、東京ベーシックドリルのシステム的な活用を継続する。同時に、隔週の補習を年間実施して、 算数科の基礎力の習得を確かにする。	<b>3</b> 92.0%	<b>2</b> 保護者 92% 児童75%	レビュータイムについては個別対応(5名)に重点を置いたことで、児童は集中して取り組め、教員もきめ細やかな対応ができた。一方、ベーシックドリルの取り組み具合が、学年、クラスによって差があった。また、診断テストの結果から、中位層、下位層の増加も見られる。3学期の改善案を着実に実施することや、来年度に向けて取り組み方や時程の変更を検討する。	Α	自校の課題をしっかり捉えて改善策を立てていることが分かりました。今後も児童の算数科の基礎力の習得のために、継続した対応をお願いします。
	キ:「思考・表現力などの資質・能力」を高めるため、「生活科と総合的な学習の時間」の校内研究に取り組み、探究と協同のある学習を充実させる。	<b>4</b> 100%	名 保護者 97% 児童89%	97%の保護者が探究と協同のある学習を充実させていると評価していただいている。また、100%の教員が、探究と協同のある学習を充実させることができたと答えている。1年間の校内研究の充実が、教員の自己評価の上昇につながった。今後は、学年便りや保護者会で情報発信につとめたり、ホームページに活動を示す写真等や情報をアップしたりしていく。また、学習の流れを教室掲示等で示し、保護者へ広めていく。	lacksquare	先生方の自己評価の数値が上ったことからも、探究と協同のある学習が、より多く行われるようになったのだと思う。保護者も研究への理解が深まっていると思う。今後も保護者への対応を大切にしてほしい。
体 のな 育	ク:体力向上のため、短縄週間等の体育的 活動を、毎学期、計画的に実施する。	<b>4</b> 100%	3 保護者 99% 児童88%	体育の授業や業間体育を通して体力向上のために計画的に進めることができた。児童の体力向上につなげるため、持久走に取り組む時間をもう少し延ばすなど、改善を図っていく。中学年以上の児童に「運動が楽しくない」と思っている児童が、わずかに存在する。今年度同様、ミニ研修の充実を図り、教員の指導力、専門性を高め、体育授業を充実させていく。	Α	子供たちの長縄を跳ぶ映像を見て、本当に素晴らしいと思いました。谷戸二小のよい伝統になっていると感じました。今後も、体育授業の充実をお願いします。
担害の対対	ケ:学校ホームページを各学年が更新し、 積極的な情報発信に努める。	<b>2</b> 評価平均 2.2	<b>4</b> 保護者 91%	ホームページ担当者の努力により、頻繁に更新が行われ、本校の情報発信に91%の保護者から評価をいただいている。パソコンが新しくなり、ホームページの更新がやりにくくなった。ICT活用委員会が紙面作成を行い、ホームページ担当者がアップしていく方法を定着させる。給食メニューを載せるなどの工夫を行い、内容を更に充実させていく。	Α	ホームページだと、保護者の方から見にくいという感じなので、「ホームページを更新しました。」という発信(メール等)があったら良いのかなと思う。また、努力目標の評価基準について、改善の余地があると思われる。
	コ:学級・学年で、保護者や地域の方々に ボランティアを依頼し、地域の教育力を活 用する。	3 評価平均 3.2	<b>4</b> 保護者 96%	保護者ボランティアを学校全体でよく活用することができた。学芸会の背景画や衣装作りを依頼し、多くの保護者が協力してくれた。学校側の呼びかけにより、保護者の協力体制が高まっている。保護者の意識を更に高めるために、来年度の募集時に、前年度の活動内容を具体的に明記してお知らせしていく。	Α	努力目標の評価基準について、改善の余地があると思われる。